

平成28年度 学び舎ひまわり第4講 開催報告

DATA

日時 平成28年10月16日(日) 10:00 ~ 16:30

会場 美晴台自治会→東永谷地域ケアプラザ

受講生 32名(地域 22名 区役所 6名 ケアプラザ 4名)

プログラム内容

様々なジャンルの取組6つをとりあげ、現地見学や当事者による取組の説明を受け、その後グループ別に意見交換をしました。

事例① 美晴台自治会の取組～地域の魅力づくり【現地見学】 紹介者：渡邊正一さん、高森惇さん



まちに賑わいを、という思いのもと、道に名称をつける会、料理を作って食べる会、防災支援隊やイベント支援隊の行事への参加など、ユニークな仕掛けをたくさん しています。まちの行事を通して住民同士が顔見知りとなることで災害時の動きも精度を増します。また、様々な形で地域とかわる事が出来るので、あらゆる年代の担い手を確保することもできます。歴代の会長が何らかの形で現役会長をサポートしているのも特徴です。

【受講生からの意見・気づき】

- ◎中学校との交流(同じTシャツを着て協力をしてもらう)、イベント支援隊に行事の応援をお願いすることなどを自治会が司令塔となりうまく回している。
- ◎宝探しゲーム、ポケモンGO、チョーク書きは真似したい。
- ◎アンケートをとって調べた結果、反対意見はもちろんあるが、積極的反対は少ないことがわかった。



事例② 芹が谷町内会の取組～防災・減災

紹介者：若林 諭 さん



【受講生からの意見・気づき】

◎地域の中でどういう人がどういう状態にいるのかが分かっていることが大切。防災・減災をキーワードにまずは地域の30世帯くらいであつまり、住んでいる人の情報共有をしていく必要がある。

◎住民がいつ避難場所や防災拠点の意味を分かっていることが大事。情報収集が自治会としての重要な役割である。

いっつき避難場所が町内会に全部で53箇所。小さな単位で集まるようにしています。お互い安否確認するには普段の関係性が大切。地域の行事を通じ、顔の見える関係を育てています。また、住民支えあいマップを作ることで、一人暮らしの人や手助けしてほしい人、手助けできる人が見付き、一層住民同士の関係性が深まりつつあります。さらに永谷連合では防災グッズを高齢者に配付、水や懐中電灯の電池などを適宜交換するためにお宅を訪問し、見守りにも繋がっています。



事例③ 最戸町友会の取組～見守り支え合い

紹介者：櫛田サワ江 さん



【受講生からの意見・気づき】

◎見守り支えあいは生きていくうえで大事。支えあいマップはこの場の話はこの場限りという約束のもと、一人暮らし男性・女性・高齢者夫婦などのオリジナルイラスト入りシールを地図に落としている。出来上がったマップは町内会で管理。

◎現在町内会の3分の2のマップ作りが完成。毎回みんなで見直し、修正している。マップ作りに関わった人が「見守りたい」という気持ちになっていくことが大切。

近年、私たちの地域で民生委員が欠員となる状況になってしまい、見守り支えあいをもっと手厚くする必要性を感じていました。そこで、民生委員だけではなく、シルバークラブの友愛メンバーと協力して支えあいマップを作りました。マップ作りを通して様々な地域特性が見えました。平らな立地のよいところは住民同士交流が進んでいて、山坂が多いところは引っ越しも多く、新しい人が越してきて交流が少ないことも分かりました。現在マップ作りを進めたメンバーで『クローバーの会』を結成、今後もマップ作りを通じ、地域の見守り活動を進めていきます。



事例④南台町内会の取組～多世代交流

紹介者：原田絢司 さん



もともと町内会長役は1年交代輪番制でした。でも任期が1年だと何も出来ないので、会則を変更、そこから現在に至るまで22年間会長として活動。子どもと高齢者に優しいまちづくりを目指し、様々な行事を行っています。

行事の中には中学生の活躍する場があったり、子どもと高齢者との交流の場があったり、家庭防災員と子ども会が連携して行うものがあったり、行事の数も多く、形もさまざま。町内会の役員が楽しめなければ、地域の活動は続かないと考え、みんなが楽しくかわりが持てるようにしています。また、町内会行事の受益者負担の必要性について現在検討しています。

【受講生からの意見・気づき】

◎自治会役員が役割ではなく、自分自身が楽しんでいる。
みんなが楽しんで集まれるグループを作ることが、地域の絆を作る第一歩！

◎たくさんの行事をやっていて、地域の皆さんも楽しませるといふ気持ち。畑で芋掘りができるのは恵まれた環境。

食事会は女性部が手作りでやっていて、3月には女性部を男性がもてなすという、会長の気遣いで成り立っている。



事例⑤ あざみ町内会・中永谷団地自治会の取組～担い手の確保

紹介者：岡原直樹さん、湊博康さん



7年前に2人が会長になった時、同世代の現役という共通点もあり、何か一緒にできないかと考えていました。そんな中、地域の元ソフトボールチームのメンバーで「健酔会」を結成、定期的に飲み会を行い、具体的な取組について話すようになりました。子ども神輿を作り2町会でお祭りを仕掛けたり、流しそうめんをしたり、防災訓練や防災グッズの試用、婦人部と一緒に煮炊きをするなど活躍しています。女性たちも「レディース健酔会」を結成、みんなで楽しく取り組むことが活動が盛んになる要因だと思います。2町会の子どもの会の連携も進み、小さな町内会でも色々な活動ができるという自信になりました。

【受講生からの意見・気づき】

◎役員の高齢化・固定化が進み、仕事している人が入れない。
役員は接着剤のようなマッチングをする役割。出来る人が出来ることを出来る範囲で、をモットーにして取り組んでいくことで、若い人が入り込める余地があるのではないかと。

◎自治会役員が輪番制・総入れ替えで会長負担が多く、消極的な考えになりつつある。でもラジオ体操など活性化して集まれることもあるので、年末にでも忘年会を設け、飲みニケーションをしようと思った。



事例⑥ 日野第一地区の取組～健康づくり

紹介者：高柳順子 さん



病気で体が不自由な方たちから、もっと動けるよう機能回復したい、地域で友達がほしいという声があがり、リハビリ教室「あじさいの会」を発足。民生委員や保健活動推進員などに呼びかけ、また研修会に参加してボランティア研修を行い、平成12年実現にこぎつきました。内容は多岐にわたり、ポッチャ、陶芸教室、音楽教室、理学療法士によるリハビリ体操、屋外散策、年賀状作りなどなど、毎回違うメニューを参加者だけではなく、運営する側も一緒に楽しみながら行っています。現在の課題は、歩くのが大変な方を車で送迎するボランティアが少ないこと、また、デイサービスに通う人が増え、参加者そのものが少なくなっていることです。

【受講生からの意見・気づき】

- ◎健康づくりを目的とした体操教室は楽しくないと続かない。楽しく笑いながらやることで、心の健康づくりに繋がる。
- ◎その場で運動するだけでなく、普段の生活の中で運動を習慣づけたり、防災活動への参加を呼びかけたり、体操以外のことでも声をかけられるきっかけの場となっている。



講師 内海氏よりコメント



どの事例を聞いていても、高齢化が着実に進んでいるように感じますが、市内南部には多世代が住む町が多いため、希望も持てると思っています。働き盛りの40～50代がどのように地域と関わっていくかが今後のまちづくりのカギとなると思います。

地域づくりは、出来る人が、出来る範囲で、出来る限り、というのが基本ではありますが、役員は「こうしたい」という考えをしっかりと持っていることが必要。地域の情報を集め、それを発信するコーディネーターとしての役割がとても大切です。



東永谷地域ケアプラザのおふたり、大変お世話になりました！



こうなん YOU 輝のみなさん、今年もおいしいカレーをありがとうございました！

学びのまとめ 集計結果

回答数 30件 回収率 93.8%

満足	やや満足	やや不満	不満
26	4	0	0
86.7%	13.3%	0.0%	0.0%

受講生の声

- ◎美晴台自治会の坂の多い街並みを逆手にとって街の活性化を楽しみながらみんなで努力し、協力し合っている姿に感心した。
- ◎美晴台の、掲示板のソーラーシステムはただ明るく読めるだけではなく、災害、防犯にも役立つのでとてもいいと思った。
- ◎美晴台自治会のアイデア、発想力、行動力に敬服した。特に新しいイベントについては住民にアンケートをとり、合意形成をしていくところなどはとても参考になりました。
- ◎美晴台の、歴代の会長が現役会長をささえる仕組みにはびっくりした。
- ◎自治会役員は接着剤、できる人ができる時にできる範囲で、という意見に感銘を受けた。無理をしないことが、担い手を増やしていくコツだと思った。
- ◎ボランティアや町内会役員はいやいややると負担ばかりが増すので、楽しんで前向きに取り組むことが必要。
- ◎支えあいマップなどがすべて防災につながっているという考え方は参考になった。
- ◎中途障がい者や高齢者、体の健康はもちろんだが心の健康も大切なこと。明るく笑いあいながら時間を過ごすのはとても有意義なことだと感じた。
- ◎どの事例にも子供たちが楽しそうに参加しているのがいいと思った。
- ◎少人数でとことん話し合うことが出来、とてもよかった。
- ◎飲コミュニケーションも大事！
- ◎待ち合わせの場所が分かりにくかった。もう少しはっきりした記載をお願いします。